

大津北警察署協議会議事録

開催日時	令和6年12月13日（金）午後2時30分～午後5時30分	
開催場所	東洋紡グラウンド 大津北警察署3階大会議室	
出席者	委員	石井智会長 前川賢慈副会長 海老叢紀委員 土井文雄委員 仲川恵子委員 中谷邦子委員 西村秀哉委員
	警察	森下署長、宮脇副署長、中谷警務調査官、小西会計課長、野元生活安全課長、高峰地域課長、佐野刑事課長、山本交通課長、篠崎警備課長、機動警察隊1名、生活安全企画課1名
議事概要	<p>1 県警ヘリコプター（いぶき）の視察</p> <p>災害時の臨時発着場に指定されている東洋紡グラウンドにおいて、県警ヘリコプター「いぶき」を視察した。</p> <p>操縦士から装備資機材の説明があった後、委員らから「大津北署には臨時発着場が何カ所あるのか。」「県警ヘリポートから東洋紡グラウンドまでの所要時間や航行速度と距離はどれくらいか。」「山岳遭難のほか、湖上捜索もするのか。」「山岳遭難は県警ヘリと防災ヘリのどちらが現場に向かうのか。」等、活発に質問がなされた。</p> <p>2 警察署協議会</p> <p>(1) 署長挨拶</p> <p>署長から、第2回協議会以降の大津北署管内における犯罪情勢、交通事故発生状況等の説明を交え、住民の方々が安全に安心して新年を迎えられるよう、署員一丸となって歳末特別警戒に取り組んでいる旨の挨拶がなされた。</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>今年元旦に発生した能登半島地震の救助援助隊として活躍した警察本部機動警察隊員と被災者支援活動に従事した本部生活安全企画課員を招き、救助活動、支援活動の体験談の講話を実施した。</p> <p>講話の後、委員から「私もこれまでボランティア活動で能登に何度か足を運んでいるが、1年近く経っても道路の整備がまだまだ完全でないなど、何ら変わらない状況に憤りを覚えている。発災後、まもなくして震災家屋から金品が盗まれる被害や、公費解体と称して家屋を解体して莫大な金額を要求する事案も発生しているということを知っている。先行きの見通しの不安から</p>	

命を絶つなどの二次被害、三次被害が現実には起きている中で、民間の立場としてこれからも支援を続けたいと思っている。被災地の復興は程遠く、聞かせてもらった体験を他の人たちにも広く聞かせてあげてほしい。」旨の意見がなされた。

委員から、熊本地震の際は発災2日後に救援物資をもって被災地に入っているが、地域性などの問題からか支援が入りにくい場合もある。治安維持のために救助以外でも早い段階で被災地に入る必要があると考える旨の意見がなされた上で、「被災者支援は制服で行っているのか。」、「災害警備のために軽トラックが導入されたと聞いたが、そうなのか。」旨の質問がなされ、生活安全企画課員及び機動警察隊員からそれぞれ「基本的には制服で行っている。」、「そのとおりである。」旨の説明がなされた。

委員から「機動隊がまず入るのか。」、「指揮命令はどこか。」、「他の部隊との横の連携は。」、「救助活動はどのようにして行われているのか。」旨の質問があり、署長及び機動警察隊員から「県内には県機動隊と管区機動隊があり、緊急援助隊に指定されているので、要請があった後に被災地に入るが、能登半島地震では県警ヘリが一番に出動している。」、「指揮指令は警察庁となるが、現場責任者にも一定の裁量を持たせている。」、「管区機動隊であれば、定期的に合同訓練を実施するなど連携を取っている。」、「救助活動は他の部隊と合同で連携しながら実施している。」旨の説明がなされた。

委員から「火事場泥棒は、一定どんな災害現場でも発生していると思われるが、なぜ対策ができなかったのか。」旨の質問があり、署長から「現場は非常に混乱しており、救助活動やインフラ整備が優先されて手が回らないところもあると考える。」旨の説明がなされた。

委員から「実際に被災者から何を聞いたか。」、「食料はどうだったか。」旨の質問があり、生活安全企画課員から「発災から3か月が経って被災地に赴いたが、その時期には仮設住宅に入居できるのかといった心配の声が多くあった。」、「ガスも通って自炊もできる状況であった。」旨の説明がなされた。

3 次回開催について

次回は、今年度最後となる4回目の協議になり、警察の定期異動も考慮して2月初旬から中旬を目途に実施する方向で決定した。

